

わたしの家のてまえどろ運動

沼津市内小学校

山本さん

「おへの方から取ってね。」

これは、スーパーで商品をカゴに入れる時、お母さんに言われる言葉です。しょう味きげんの長い物をえらんでねという意味です。

ある日わたしは、テレビで、「てまえどろ」について知りました。

「てまえどろ」とは、商品だなの手前にある、きげんの近い商品を買うことです。きげんがすぎて、すてられてしまう前に買うことで、食品ロスをへらすことが目てきです。

わたしは、すぐにお母さんに教えてあげました。すると、お母さんはとてもおびろいていました。きげんの長い商品を買って使いきめることで、食品ロスをへらせると思っていて、お店の売れのこりのことまで考えていなかったからです。

「たしかに、みんながおくから取ったら、はいきされる物が多くなってしまうね。でも、まとめて買い物をするから、てまえどろばかりできないよ。」

と、お母さんは言いました。たしかに、肉や魚はしょうひきげんが短

いので、てまえどろばかりはできません。

そこでわたしは、すぐには使いきらないけれど、毎回かならず買う牛にゅうはどうだろうと考えました。

うちで買う牛にゅうは、1本900mlです。まず、わたしと妹が、週に一度、朝食でグラノーラに200mlずつ使います。お母さんは、プロテインを飲むのに、毎日200ml使います。お父さんは、土曜日と日曜日に、コーヒーに入れて150mlずつ使います。買う曜日にもよるけれど、うちでは、2日から5日で1本飲みきっていることが分かりました。なので、買う時に、曜日と使いきる日数を考えてえらべば、手前の方から取れるはずですよ。

お母さんに伝えると、

「本当だね。教えてくれてありがとう。これからは、ほかの物も、何日で使いきるのか考えて、なんとなくおくから取らないように気をつけるね。」

とってくれました。全部をてまえどろはできないけれど、少しでも食品ロスをへらせたらうれしいです。

わたしは子どもなので、かんきょう問題への取り組みもできないこととは多いです。でも、一緒に考えることはできます。

お母さんとお父さんが子どものころは、てまえどろも、SDGsも、

3Rもなかったそうです。わたしがかんきょうのことを新しく習った
ら、これからも家々へに教えて、わたしの家でできる方ほうを—しょ
に書えようと思ひます。